

23 泌尿器科領域の慢性感染症における 漢方薬の位置づけ

神戸大学泌尿器科¹⁾、神戸大学大学院医学研究科医療創成工学²⁾

**重村 克巳¹⁾²⁾、梁 英敏¹⁾、前田 光毅¹⁾、中野 雄造¹⁾
藤澤 正人¹⁾**

泌尿器科領域において、近年漢方薬を使用する頻度は以前より増加している傾向にある。特に癌関連の諸症状の緩和、男性不妊症関連の治療、さらには排尿障害、すなわち頻尿や排尿困難、残尿感などの諸症状、ならびに膀胱炎や前立腺炎などの慢性尿路性器感染症における下腹部や会陰部の違和感などが対象になることが多い。我々は以前から、その中でも特に慢性尿路性器感染症患者の疲労感、下腹部不快感、排尿時違和感、膿性分泌物漏出などの諸症状に対して補中益気湯、清心連子飲、八味地黄丸などを使用し、一定の効果を見てきた。また、これらの中でも特に治療に難渋するような慢性感染症、なかでも慢性前立腺炎に対しては、上記薬剤に加えて竜胆瀉肝湯などを使用し、一定の効果も見てきた。発表の際には症例の解説も交えて提示させていただきます。